

# ドスケベ聖女と強制ラブラブ孕ませ懇願セックスするお話

セシリア

「ん？ あら。どなたがお祈りに来たかと思えば」

セシリア

「ふん。またあなたですか」

セシリア

「分かっているのでしょうか？ 我々が信ずる神、セレス様は人間の欲、特に性欲を決してお許しにはなりません」

セシリア

「故に、あなたのような性欲しか能がないキモ豚を信徒に迎え入れる事は決してありえないわ」

セシリア

「どうせ今も……やっぱり」

セシリア

「神の御前に立っておきながら尚勃起を抑えられない性欲の権化」

セシリア

「チツ……本当に穢らわしい」

セシリア

「……早く死んでしまえばいいのに」

セシリア

「ん？ 何ですかその目は」

セシリア

「まさか自分が勃起してしまうのは私の衣装が下品すぎるから、などと言うつもりじゃないわよね？」

---

セシリア 「確かに私のシスター服は少々スケベなデザインに仕立て直してあるけれど、これはあくまであなたのような性欲に脳を犯された下衆をあぶりだす為の工夫」

セシリア 「つまり何が言いたいのかという……っとお！」

セシリア 「この神聖なる教会でえ！ 私の体を視姦してえ！ 穢らわしい性器を勃起させておいてえ！ セレス教に入信しようなどとお！ どの口が言っているのかあ！ 聞いているのですよお！ このキモ豚があ！」

セシリア 「ふう〜、ふう〜、ふう〜、すう〜……ふう〜〜〜」

セシリア 「っと、いけないわ」

セシリア 「セレス様に仕える聖女が怒りに囚われるなどあつてはならない事」

セシリア 「やはりこのキモ豚は地下の拷問室で始末した方がいいわね」

セシリア 「ではまず手を縛って……っど、あら？」

セシリア 「あなた、その指に嵌めている指輪は何ですか？」

セシリア 「一度よく見せてください……っど、まあ」

---

---

セシリア

「何と美しい指輪なのかしら♪」

セシリア

「深紅に輝く紅色の宝石に曇り一つないプラチナの輝き」

セシリア

「例え王家が所有する宝物庫にあっても見劣りしない一品」

セシリア

「このような宝をあなたのようなキモ豚が持っているてはまさに豚に真珠。指輪も泣いているわ」

セシリア

「そうね。せっかくだからこの指輪は私が預からせて貰うわ」

セシリア

「は？ 泥棒？」

セシリア

「チ……このキモ豚が。一体何を言い出すかと思えば」

セシリア

「これは教会へのお布施として私が預からせてもらうだけ」

セシリア

「人聞きの悪い事を言わないで頂戴」

セシリア

「それに、この指輪もあなたみたいな豚より、私のような清楚で美しい女性に嵌められた方がより輝きを増すに決まってる……って、うぐ！ な、何ですか……！」

---

---

セシリア 「急に指輪から邪悪な魔力が溢れて、うぐ！ぐ、  
くう……！」

セシリア 「この邪悪な魔力は……！」

セシリア 「まさか魔族のマジックアイテム!？」

セシリア 「ぐっ！ 私がこんなキモ豚にハマられるだなんて!」

セシリア 「うぐ！ だ、ダメ……もう……意識が……あ……  
やあ…………」

---

セシリア 「ん、んうゝ……ん、あら？ 私はどうしてこんな所で眠って……」

セシリア 「それにあなたは一体？」

セシリア 「……っと、ああ、そうだったわね。全部思い出したわ」

セシリア 「確か今日は我らが信じる『チンカス教』の神、『聖オチンポ神』へチンカスをお供えする日でしたね」

セシリア 「せっかく朝早くからチンカスのお供えに来てくれたのに性女である私が寝坊してしまうだなんて」

セシリア 「ああ主よ。おちんぽ様に媚び、チンカスをいただくだけしか能のない私をどうかお許しください」

セシリア 「って、あなたはさっきから何故そんな下卑た笑みを浮かべているのかしら？」

セシリア 「はい？ チンカス教の教えを改めて教えて欲しい？」

セシリア 「全く。いくら神聖なチンカスを育む偉大な包茎おちんぽ様の持ち主だからといって、チンカス教の教えを忘れるなんて信じられないわ」

---

セシリア

「いい？ オチンポ神に仕え、この身を捧げる私のような性欲処理に特化した女性を『性欲を受け止める女』すなわち『性女』と呼ぶわ」

セシリア

「性女はおちんぽ様に仕え、奉仕する事が義務とだけど、その中でも最重要とされる務めがあるの」

セシリア

「それは、神に選ばれし神聖なおちんぽ様、包茎おちんぽ様でのみ育まれる穢れの無い純白の供物である『チンカス』」

セシリア

「この『チンカス』を性女の体内を通して神へと捧げる事」

セシリア

「それこそが性女の義務。性女の生きる理由なの」

セシリア

「『女はチンカスを捧げる蜜壺であれ』」

セシリア

「チンカス教の聖典にも記される大切な教えよ」

セシリア

「今後、貴重な包茎おちんぽ様を所持するあなたには毎日のように教会へ来てもらい、包茎の中にため込んだ無数のチンカスを、私のお口へ♪ おまんこへ♪ お尻の穴へ♪ お金玉が空っぽになるまで注ぎ込んでもらうわ」

セシリア

「全く。本来であればあなたのようなキモ豚と交わるだなんて死んでもご免なのだけだ」

---

---

セシリア

「ふん！ 包茎おちんぼ様を与えてくださった『おちんぼ神』様に感謝するのね」

セシリア

「ふう。それじゃあ、チンカス教の筆頭性女である私が責任をもってチンカス処理を務めるから」

セシリア

「あなたの長くく伸びたチン皮に濃厚なチンカスをため込んで、性女の体へ捧げて頂戴♪」

---

セシリア 「チンカスをいただく前に、先にあなたの包茎おちんぽ様を元気にしてあげる」

セシリア 「今も私の下品な姿に興奮してくれてるようだけど、もっと大きく、太く、硬くなって貰わなくては困るから」

セシリア 「チンカス神に仕える性女として、精一杯ご奉仕させて貰うわね」

セシリア 「はあく……さあ♪ 私の唇を良く見なさい？」

セシリア 「そう……♪ そのまま楽な体勢で……♪」

セシリア 「私のファーストキス……受け取りなさい？」

セシリア 「はあむ、ちゅ♪」

セシリア 「んはあ♪」

セシリア 「ふふ♪ 幸せそうな顔しちゃって♪」

セシリア 「ただ勘違いしないで？ これはあくまでチンカスを引き出す為の前座」

セシリア 「別にあなたを好いているからこうして……ん、ちゅ♪」

---

セシリア 「キスをしている訳ではない事、きちんと頭に入れておきなさい?」

セシリア 「はむ、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

セシリア 「ん、はぁ♪ それにしても、殿方とのキスがこれほど気持ちいいとは……」

セシリア 「ん、ほらあなたも。今だけは愛しい恋人を想うようにキスしなさい?」

セシリア 「さぁ……来て……♪ ん……はぁむ♪」

セシリア 「んはぁ……♪ ん♪ちゅ♪ ん♪ はぁ、はぁ……♪」

セシリア 「んふう……ん、く♪ く♪ ん、キモ豚の涎はどんな味かと思ったけど」

セシリア 「ふふ♪ 全く予想通りというか、やはり臭くてねっとりしていて、とてもじゃないけど飲めたものじゃないわね」

セシリア 「だけど、ん♪ どうしてかしら♪」

セシリア 「あなたの臭くて汚い唾液を口に含むと、どうしようもなくメスとしての本能が刺激されちゃうわあ♪」

セシリア 「ん♪ はぁ……♪ ん♪ はぁ……そうね」

---

---

セシリア 「もっと激しいキスをすれば、この現象の理解も進むはず」

セシリア 「という事で、さあ、お口を開きなさい？」

セシリア 「あなたの唾液と私の唾液を飲ませ合うわよ♪」

セシリア 「んゝ……くちゆくちゆくちゆくちゆく♪ くちゆくちゆくちゆくちゆく♪」

セシリア 「ん♪ れゝゝろれろれろ♪ じゅるるる♪  
じゅるるるゝゝ♪」

セシリア 「ん、ぷはあ♪」

セシリア 「はあ、はあ……って、あらあら♪ このキモ豚ってば♪」

セシリア 「いつの間にかおちんぽ様、こんなに大きくなって  
いるわよ?」

セシリア 「性女の唾液を飲んで興奮するだなんて、あなたってばどうしようもない変態ね」

セシリア 「ふふ♪ いいわ♪ もっと飲みなさい♪ 性女の唾液でザーメングツグツ煮えたぎらせなさい♪」

セシリア 「ん、くちゆくちゆくちゆくちゆく♪ くちゆくちゆくちゆくちゆく♪」

セシリア 「んゝ……れゝゝろれろれろ♪ じゅるるる♪」

---

---

セシリア 「んちゅ♪ ちゅぷ……ん……ぷはあ♪ はあ、  
はあ♪」

セシリア 「こんなにキモ豚の唾液を口移しされては……ん♪  
口の中が臭くなってしまうわ」

セシリア 「……だけどこれも性女の役目」

セシリア 「あなたのくっさい唾液、全て」っくんしてあげる  
わ♪」

セシリア 「さあ……唾液を」くくする音、よく聞いてな  
さい？」

セシリア 「あなたと私の唾液をお口の中で混ぜて込んでえ」

セシリア 「ん、くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく  
ちゅくちゅくちゅ♪」

セシリア 「いふわよ？」

セシリア 「ん、くく♪ くく♪ くく♪ くく♪ ん、ぷ  
はあ♪ はあ、はあ、はあ、はあ……♪」

セシリア 「うっぷ……本当に何て不味い唾液なの？ こんな  
物を飲んでいたらいつか病気になってしまうわ」

セシリア 「でも……苦労して」っくんした甲斐はあったみた  
いね♪」

---

---

セシリア 「だって、あなたのここ♪ おちんぼ様♪ すっか  
リギンギンに勃起しちやっってるわよ？」

セシリア 「ほら今もビクビクっと跳ねて♪」

セシリア 「こっうやって耳元で囁かれるのがいいのかしら？」

セシリア 「それなら、もしこのまま耳を舐めたりなんてした  
ら……ん、じゅるり♪ れっろれろれろ♪」

セシリア 「ああ♪ 包茎おちんぼ様が喜んでくださってる  
♪」

セシリア 「いいわ♪ このまま性女のエロ肉を押し付けて、  
あなたの汚いお耳♪ れろれろ舐めてあげる♪」

セシリア 「ん、れっろれろれろ、じゅる♪ じゅるるる  
♪」

セシリア 「ん、あん♪ や、ちょっとあなた、耳舐め中に胸  
を揉むのは、ん、あん♪」

セシリア 「はあ、はあ……ん♪ そう……ずっと気になって  
いたのね？ 私の下品でながっいデカチチ♪」

セシリア 「ん♪ いつも気持ち悪い視線で見られてたし、嫌  
でも気づくに決まってるじゃない」

---

---

セシリア 「まあそもそも、あなたに興奮してもらい、チンカスを熟成させる為に着てる衣装なのだから、本望ではあるのだけれど♪」

セシリア 「はあ、はあ……ん♪ だから、どうぞ」

セシリア 「私の自慢のデカチチを虐めて、もっとチンカスを熟成させなさい♪」

セシリア 「はあ、ん、ああん♪ や……そんな、揉んでいいと許可したけど、ん♪ そんな激しくだなんて……ん♪ ああん♪」

セシリア 「んふう♪ ん、ああん♪ いくら強く揉んでも、お乳は出ないわよ？ ん♪ ああ♪」

セシリア 「や、指がメス肉の中に埋まってきた、ん♪ はあ、はあ……♪ 自慢の長乳が犯されていく……う……ああん♪」

セシリア 「はあ、はあ……♪ ん♪ 私も、耳舐めの続きを……んれくろれろろ♪」

セシリア 「ん、はあ……♪ んあ……♪ ふふ♪ 胸だけでなく太ももまで」

セシリア 「そんな、ハムのような太ももだなどと……いくら何でも失礼……って、おおん♪」

---

---

セシリア

「ん、んぶう♪ ちょ、やつ、そこは不浄の穴……  
んぶう♪ 性女のケツ穴あ♪ や、やめ……ん  
ほおん♪ お♪、お♪、おお……♪」

セシリア

「うぐっ……太ももは構いませんが、ケツ穴まで許  
した覚えは……ん、お♪、お♪、お♪、お♪  
お……♪」

セシリア

「んぶう……ぶう……ぶう……ぶう……ぶう……！」

セシリア

「ぐ……どうやらキモ豚の癖に調子に乗ってるみた  
いね」

セシリア

「こうなったら私も……本気の耳舐め」奉仕で対抗  
するさせて貰うわ」

セシリア

「さあ、もっと耳を「ちらへ……んれ……ろれろ  
れろれろれろ♪」

セシリア

「んちゅ♪ じゅるる……♪」

セシリア

「ん、ふふ♪ あらあら♪ お耳を激しく犯されて  
あなたも限界のようね♪」

セシリア

「だって、ほら♪ あなたの包茎おちんぼ様♪」

セシリア

「あまりの勃起具合にチン皮がどんどん捲れていつ  
て……♪」

---

---

セシリア 「ああ♪ チン皮の隙間に沢山白い塊が見え隠れして  
るわ♪」

セシリア 「まだ半分も捲れていないのにこの香り♪」

セシリア 「ああ……待ち遠しい♪ これがおちんぼ様の恥垢  
……♪ 精液とおしっこが固まった神聖なるチン  
カス様♪」

セシリア 「ん……ごく♪ ほら♪ 恥ずかしがってないでよ  
く見せなさい？」

セシリア 「大丈夫。私はあなたを軽蔑しているけれど、あな  
たのおちんぼ様は愛しく思っているから」

セシリア 「例えどれだけチンカス臭くても、どれだけチンカ  
スで満ちていても」

セシリア 「チンカスもチン皮も、あなたの包茎おちんぼ様の  
全てを愛してあげるわ♪」

セシリア 「だから……ほら♪ チン皮を剥きなさい？」

セシリア 「そう……こうして、指先でチン皮をつまんで…  
…」

セシリア 「それ♪ チン皮ムキムキ♪ チン皮ムキムキ♪」

セシリア 「ふふ♪ チンカスで出来た糊がペリペリ剥がれて  
きたわ♪」

---

---

セシリア 「ああ……♪ チンカスが白く輝いて……♪ 待ってなさい？ 今チン皮から出してあげる♪」

セシリア 「それ♪ チン皮ムキムキ♪ チン皮ムキムキ♪」

セシリア 「ん、ああ♪ やったわ♪ チン皮がズルっと剥けて……ってうぐっ！、お♪、お〜♪」

セシリア 「んぐう！、お〜……何て臭い匂いなもの♪」

セシリア 「チンカスがおちんぽ様にびっしり張り付いて」

セシリア 「うー！、おえ……♪ ふ、ふふふ……♪ 本当に臭くて汚い、最っっ高のチンカスおちんぽ様だわあ♪」

セシリア 「はあ〜♪ チンカス♪ チンカス♪ チンカス♪  
♪ チン・ン・カ・ス♪」

セシリア 「ず〜っとチン皮の中で熟成された汚いチンカス♪」

セシリア 「性女に食べさせるために蒸らされたくっさいチンカスデザート♪」

セシリア 「神に捧げられる極上のチンカス♪ チンカスのフルコース♪」

セシリア 「ほ〜ら♪ チンカス♪ チンカス♪ チンカス♪  
チ〜ン〜カ〜ス♪」

---

---

セシリア

「などと囁いてみたけども、ふふ♪ なるほど♪」

セシリア

「こうやってチンカスと囁かれることでより我慢汁が溢れ、チンカスに味加わるようね」

セシリア

「それなら……今度はこっちのおくみくみで♪」

セシリア

「ドスケベな言葉を囁きながら耳舐めしてあげる♪」

セシリア

「んれくろれるろろ♪」

セシリア

「ん……ちゅ♪ ふふ♪ せっかくこんなに沢山チンカスがあるのだから、口でおしゃぶりする前に少し摘まみ食いさせて貰うわね♪」

セシリア

「ん……指にチンカスを擦り付けて……」

セシリア

「はあ♪ これが剥きたてホヤホヤのチンカス♪」

セシリア

「ん……スン、スンスン……ん、お♪、お♪、お  
くくくく♪」

セシリア

「んふう♪ ふう♪ ふう♪ ん、お♪、お  
♪、おほお……♪」

セシリア

「これが出来立てのチンカスの香りい♪ 何と形容しがたい臭さなのかしら♪」

---

---

セシリア 「鼻が曲がりそうなほど臭いの……それでも目が  
離せないほど美しい……♪」

セシリア 「ああ、主よ♪ 今から私の体を通して、この神聖  
なるチンカスを御身の元へ捧げさせていただきま  
す♪」

セシリア 「んぐ……はあ〜む♪」

セシリア 「ん、ぷはあ♪ はあ♪ はあ♪」

セシリア 「ああ♪ これがチンカスの味なのね♪」

セシリア 「とっても苦くて、臭くて、しょっぱくて♪」

セシリア 「ん〜……じゅるるる♪ ちゅぱあ♪」

セシリア 「癖になる味♪」

セシリア 「ああん♪ ダメだわ♪ こんな美味しいチンカス  
を食ってしまったら戻れなくなってしまう♪」

セシリア 「チンカスの無い生活なんて送れなくなってしま  
うわ♪」

セシリア 「はあ♪ ああ♪ もっとあなたのチンカスが欲し  
い……♪」

セシリア 「濃厚なチンカスを食べたいの……♪」

セシリア 「だ〜か〜ら♪ ん〜……ちゅ♪」

---

---

セシリア

「チンカス臭くなった私の耳舐めご奉仕で」

セシリア

「もっともっと濃くてくっさい濃厚チンカスチー  
ズ、作りなさい？」

セシリア

「んれゝろれろれろ♪」

セシリア

「ん、ちゅ♪」

セシリア

「はあ……♪ ダメ……♪ こんな耳カス、いくら  
食べても満足できないわ」

セシリア

「やはりチンカスでないと……♪」

セシリア

「ん、今度は剥きたてホヤホヤのチン皮に付着した  
熟成チンカスを一つまみ♪」

セシリア

「あゝゝ……んむ♪」

セシリア

「んふふ♪ 口に残ったチンカシュを唾液と混ぜて  
ゝ……んゝ、くちゅくちゅくちゅくちゅく  
ちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

セシリア

「んぐ♪ 『く♪ ぐ♪ ぐ♪ ぐ♪』

セシリア

「ん、んゝ……ぷはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ はあ  
ゝゝゝ♪ はあゝゝゝ♪ はあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
♪」

セシリア

「ふふ♪ ほんのひと欠片のチンカスでもうこんな  
に口が臭くなってしまった♪」

---

---

セシリア 「まるで何日も歯磨きをしていない、生ゴミのよう  
に酷い口臭♪」

セシリア 「もしチンカスおちんぽ様を直接口に含んでしまっ  
たら、一体どうなってしまうのかしら♪」

セシリア 「ああ♪ 今から楽しみで楽しみで、ん、お♪、お  
♪、お♪、んぷっ♪」

セシリア 「ふふ♪ チンカス欲しさに豚声が漏れてしまう  
わあ♪」

セシリア 「あなたも♪ どう？ 私のチンカス咀嚼でおちん  
ぽバッキバキになってきたのでしょうか？」

セシリア 「このチンカス塗れの肉棒で、私の清らかなるお口  
を犯したいのでしょうか？」

セシリア 「……ええ。いいわよ？ あなたのチンカスを直接  
私の口に入れなさい？」

セシリア 「チン皮に張り付いたチンカスも♪ カリ裏で固  
まった熟成チンカスも♪ 亀頭に張り付いた新鮮  
なチンカスも♪」

セシリア 「余さずこのお口でしゃぶりとってあげるわ♪  
ん、ちゅ♪」

---

	トラック04
セシリア	「くん♪ くんくん♪ すう〜……はあ〜……♪」
セシリア	「ああ♪ 汗と我慢汁とおしっこ、そしてチンカスが混じった匂い♪」
セシリア	「あまりの臭さに鼻がひん曲がってしまいそうだわ♪」
セシリア	「けれど、この純白に輝くチンカスを食し、神に捧げる事こそ性女の役目」
セシリア	「まずは偉大なる包茎おちんぽ様に忠誠のキスを捧げさせてもらうわね♪」
セシリア	「すう〜……はあ〜……♪ ああ♪ おちんぽ様あ♪ どうか私の忠誠の証をお受け取り下さいませ♪」
セシリア	「ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」
セシリア	「ん〜おちんぽ様あ♪ チンカスおしゃぶり、失礼いたします♪」
セシリア	「はあ〜む♪」
セシリア	「んぱあ♪ はあ♪ ちゅ♪ じゅるじゅる、ん♪ ちゅ♪」

---

セシリア 「ああ♪ 直接チンカスをしゃぶれる日が来るなんて♪ ん、ちゅ♪ じゆるじゆる♪ 本当に幸せだわ♪」

セシリア 「ん、ちゅ♪ とってもネバっこくて下品な味い♪ ん、じゆるる♪ んふう♪」

セシリア 「さつき食べたチンカスの欠片とは比べ物にならない♪ まさにチンカスの食べ放題だわ♪ ん、じゆるじゆる♪」

セシリア 「ああ♪ くっさくいチンカスう♪ 下品な熟成チンカスチーズう♪ んれくろれろるる♪ じゆるるる♪」

セシリア 「んふう♪ 朝食食べたフルーツの味が全部チンカスに上書きされるう♪」

セシリア 「本当に下品でくっさい、最高のチンカスよ♪」

セシリア 「んれくろれろれろるる」

セシリア 「んはあ♪ ああ♪ 口の中がチンカス塗れ♪ 歯の間にも張り付いて、ん♪ 上手く食べれないじゃない♪」

セシリア 「ん、もつと、しっかりチンカスを咀嚼して」

---

---

セシリア 「くちやくちやくちやくちやく くちやくちやく  
ちやくちやく」

セシリア 「ん？ ふふ♪ あらあら♪ 包茎おちんぽ様って  
ば、何でまた大きくなってるのかしら？」

セシリア 「もしかして、私のチンカス咀嚼に興奮したの？」

セシリア 「ふふ♪ 我慢汁まで垂れてきて、んれ〜〜ろれ  
ろれろ、じゆるるる、ちゅ♪」

セシリア 「全く♪ それならもっとおちんぽ様をしゃぶっ  
て、チンカス咀嚼してあげるわ♪ はあむ♪」

セシリア 「ん、じゆるる、ふふ♪ 裏筋にもこんなべった  
リチンカスが張り付いて♪」

セシリア 「ん〜、ここはペロを伸ばして〜、れ〜ろれろれろ  
れろれろれろれろ♪ れろれろれろれろれろれろ  
れろれろ♪」

セシリア 「ん〜ちゅ♪ ふふ♪ 私のペロの先をよく見なさ  
い♪ んれ〜〜♪ ほら♪ あなたのくっさいチ  
ンカスで真っ白♪」

セシリア 「んむ、ああ主よ♪ 聖なるチンカスを今お届けし  
ます♪ はあむ♪」

セシリア 「くちやくちやくちやくちやく くちやくちやく  
ちやくちやく」

---

---

セシリア

「ん、くく♪ くく♪ くく♪ くく♪」

セシリア

「ぷはあゝゝ♪ ふふふ♪ 裏筋チンカスチーズ、  
く馳走様♪」

セシリア

「って、あら。このキモ豚は何を終わったような顔  
をしているのかしら」

セシリア

「まだ剥きたてホヤホヤの包茎チンカスチーズが  
残っているわよ？」

セシリア

「今もチン皮にべゝったり張り付いて、くっさい匂  
いをプンプンまき散らすおちんぼ様の恥垢♪」

セシリア

「ああ♪ ここが一番臭みが濃くなって、蒸れて茹っ  
てて♪ ああ♪ 何て美味しそうなチンカスなの  
♪」

セシリア

「霜降り牛にも見劣りしない、A5ランクの極上チン  
カス♪」

セシリア

「喉の奥までくわえ込んで、しゃぶり尽くしてあげ  
るわね♪」

セシリア

「ああゝゝゝんむうー！」

セシリア

「んゝじゅるるるる♪ んぶんぶんぶんぶ♪ んぶ  
んぶんぶんぶ♪」

---

---

セシリア 「んぶんぶんぶんぶ♪ んぶはあ！ はあ、  
はあ、うっぶ」

セシリア 「う、何て量なの？ あんなに舐めたのにまだビツ  
チリチンカスがこびり付いて」

セシリア 「とにかく一度、口に溜まったチンカスを飲み干さ  
ないと……」

セシリア 「んむ、くちやくちやくちやくちやく♪ くちやく  
ちやくちやくちやく♪」

セシリア 「く♪ く♪ く♪ く♪ く♪ んぶはあ♪  
はあ、はあ」

セシリア 「うっぶ、おえ……チンカスの食べ過ぎで吐きそ  
うだわ」

セシリア 「でもそれだけはダメ。神に捧げるチンカスを吐き  
出すだなんて、罰当たりもいい所なもの」

セシリア 「はあ、はあ、ん、もう一度、はあむ！」

セシリア 「んぶんぶんぶんぶ♪ ん、んぶう！ ん、ん  
ぐっ！ ちよ、ちよっと！ こんのキモ豚！ 何  
急に頭を掴まないで、ってんむう！」

セシリア 「んぐんぐんぐんぐ！ ん、んぐぐぐ！」

---



---

セシリア 「はあ、はあ……………本当に、「冗談抜きで死ぬかと思っただわ」

セシリア 「ふう〜……………それにしても、えっぶ」

セシリア 「もうお腹の中が精液とチンカスでたっぷたっぷ」

セシリア 「けどまだまだ足りないわ」

セシリア 「主に満足していただく為には、今よりも多くのチンカスを捧げなくてはならないの」

セシリア 「ですから、今度はこっち♪ 性女の処女おまんこでチンカスを絞り尽くしてあげるわ♪」

---

セシリア 「ん、ふう♪ ほら、よく見なさい？」

セシリア 「あなたのようなキモ豚では一生お目にかかれな  
い、性女の生おまんこよ？」

セシリア 「はい？ パンツですって？ そんな無粋な物履く  
訳ないじゃない」

セシリア 「性女はいついかなる時でもチンカスを迎え入れら  
れるように下着の類を履いてはならない」

セシリア 「チンカス教の常識よ？」

セシリア 「とにかく、ん♪ さっさとセックスの準備をしな  
さい」

セシリア 「それと前戯なんて必要ないわ」

セシリア 「ほら、聞「えるかしら？ 私のおまんこの音♪」

セシリア 「そうよ♪ あなたのチンカスをしゃぶっていた時  
から既に……、お♪、お♪、んふう♪」

セシリア 「もうぐちゅぐちゅに濡れていたのよ♪」

セシリア 「「うやって軽く触れただけで……、お、おん♪  
、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

---

セシリア 「ん、下品な声漏れりゅ……♪ んふう♪、お♪  
お♪、お♪、お♪、お……♪」

セシリア 「ん、はあ♪ どう？ 理解できたかしら？」

セシリア 「それなら、ん♪ あなたのチンカス塗れの包茎お  
ちんぽ様、入れてくわよ？」

セシリア 「ん、ふう、ふう♪ こう、ガニ股になりながら腰  
を下ろし、て……♪」

セシリア 「んふう♪、お♪、お……♪ す、凄いい♪ ん  
ふう♪ マンカスとチンカスがキスしてるう♪」

セシリア 「ん、ん……♪ ああ♪ 包茎おちんぽ様の中に♪  
んふう♪ おちんぽ様来る♪ おちんぽ様来  
るう♪」

セシリア 「ん、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪  
お♪、お♪、お♪、お……♪」

セシリア 「んっっくううっっじうう……♪」

セシリア 「ん、ぶはあ♪ はあ、はあ……ん♪ ふう、ふう  
……♪」

セシリア 「ぶ、ぶぶぶ♪ ああ♪ これがセックス♪ おち  
んぽ様を受け入れる快感♪」

---

---

セシリア 「ん♪ 初めてでは痛いと言書には記されていたけれど、意外と平気だったわね」

セシリア 「つて、きゃ♪ ん、ちょっとあなた、私が処女貫通の余韻に浸っているというのに何を勝手に動いているの!」

セシリア 「全く、おまんこに入れて即発情とは、本当に救いようのない変態ね」

セシリア 「ふん! まあいいわ」

セシリア 「とにかくまずはおちんぽ様に付着したチンカスを私の子宮に擦りつけて……」

セシリア 「ん、確かこう上下に……!」

セシリア 「お、おん♪」

セシリア 「ん、お♪、お♪、お♪♪ な、何よこれ?」

セシリア 「子宮がおちんぽ様に貫かれたみたいに痛いのに、それが気持ちいいだなんて♪」

セシリア 「こんな感覚初めてだわ♪ これがセックス♪ これがおちんぽ様が与えてくださる快感♪」

セシリア 「はあ、ん、もういち、どッ!」

セシリア 「お、おん♪」

---



---

セシリア 「お、おん♪ んん♪ ダメえ♪ そんな事は絶対にいい♪ 許されないんだからあ♪ んほおおお♪」

セシリア 「んふう♪ ほら！ こうやってえ！ 性女のキツキツおまんこでえ♪」

セシリア 「おまんこキュツキュ♪ おまんこキュツキュ♪」  
セシリア 「ふう、ふう♪ ふう♪ ふう♪ んふふ♪ こんな初歩的なおまんこ運動で感じるだなんて♪」

セシリア 「本当に情けないキモ豚ね♪」

セシリア 「ん♪ そら♪ もっとその気持ち悪い豚顔を晒しなさいー！」

セシリア 「ほらほら♪ おまんこキュツキュ♪ おまんこキュツ、んぎゆうう！？」

セシリア 「ん、お♪、お、お♪」

セシリア 「ちよっと！ そんな、胸を揉みながらチンカスグリグリだなんてえ♪」

セシリア 「ん、お、お、お、お♪ それダメえ♪ ん、お、お、お♪  
メス肉千切れるう♪ ガニ股ダンスしながらメス汁零れるう♪」

---

セシリア

「んほおお♪ ダメ♪ そこ♪ 乳首弱いのお♪  
乳首と子宮う♪ 同時なんてえ♪ んほおお♪  
イギじぬう〜！ アクメじゆるう〜♪ ん、お〜  
♪」

セシリア

「お♪ 、お〜♪ も、もうダメ♪ 限界い♪  
おまんこ限界い♪」

セシリア

「キモ豚にイカされるう♪ キモ豚のおちんぽ様で  
イガされるう♪ おまんこ馬鹿になるう♪」

セシリア

「ん、お♪ 、お♪ 、お〜♪ チンカスアクメ来  
るッ♪ チンカスプレイでアクメ来るうう♪」

セシリア

「お〜♪ イグう♪ マンコイグう♪ アクメ  
イグう♪」

セシリア

「おおッ♪ イグ♪ イグ♪ イグ♪ イグう  
♪」

セシリア

「処女まんこイグう♪ 中出しイグう♪ チンカス  
イグうう♪ マン汁イッグう〜！」

セシリア

「ん、お〜♪ イグイグイグイグイグイグイ  
グうっ♪」

セシリア

「おまんこイッッッグうっっっう〜う〜う〜♪」

セシリア

「おっほおおおおお〜ッ♪」



---

セシリア

「はあ♪ おちんぼ様あ♪ 私の雑魚マンコを犯して下さり、誠にありがとうございます♪」

セシリア

「それと、あなたのようなキモ豚にも、一応感謝はしておこうかしら♪」

セシリア

「ほらキモ豚♪ こっちを向きなさい?」

セシリア

「この調子で今後も私の為にチンカスを作り続けるのよ? 分かったわね? んゝ……ちゅ♪」

---

セシリア 「先程は私のおまんこを通してチンカスザーメンを頂戴した訳だけれど、今度は私の不浄の穴、ケツ穴に注ぎ込んで貰うわ」

セシリア 「何故って、性女のケツ穴を清めるにはザーメン洗いが一番と性書にも書かれているでしょうに」

セシリア 「それとも、あの程度のお遊びセックスでもう限界かしら？」

セシリア 「ふん。もしそうであれば期待外れもいい所……って、あら」

セシリア 「あなたのおちんぼ様はやる気満々のようね♪」

セシリア 「なら早速……って、え？ オネダリして欲しいですって？」

セシリア 「チツ……！ おちんぼ様だけが取り柄のキモ豚が調子に乗って……！」

セシリア 「ふん！ いいわ。おちんぼ様に平伏する一匹のメスとして、あなた好みの下品で厭らしい、媚びっ媚びのオネダリをしてあげる」

セシリア 「さあ、よく見ていなさい」

セシリア 「ん♪ はあ、はあ♪ ああ♪ 包茎おちんぼ様あ  
ん♪」

---

セシリア 「見てくださいい♪ セシリアのくっさいケ・ツ・  
あ・なあん♪」

セシリア 「おちんぽ様に付着したチンカス欲しさにい♪ ケ  
ツ汁漏らしながらヒクヒク震えておりますう♪」

セシリア 「先ほどおまんこでオホオホ喘いでる時もお♪  
ずっとケツ穴でプピュブピュ甘イキしててえ♪」

セシリア 「今もお♪ んむう！」

セシリア 「んほおおお♪ んふう♪ 聞いていただいた通  
りい♪ くっさいメスの放屁い♪ ブピュブピュ  
言わせておりますう♪」

セシリア 「ほくら♪ オナラを吹かしながらあ♪ ガニ股ウ  
ンコ座りでえ♪」

セシリア 「ケツ穴フリフリ♪ ケツ穴フリフリい♪」

セシリア 「んふう♪ お♪ お♪ 性女のなっがいデカ  
チチも上下に揺らしながらのチンカス求愛ダン  
スう♪」

セシリア 「無駄に育った性女のデカ尻も揺らしてえ♪」

セシリア 「ほくら♪ ケツ穴フリフリ♪ ケツ穴フリフリい  
♪」

---

---

セシリア 「ふふ♪ さあ♪ おちんぼ様あ♪ どうぞ、チン皮に張り付いた美しいチンカスでえ♪」

セシリア 「性女のくツツさいケツ穴を浄化してくださいませえ♪」

セシリア 「ケツ穴の入り口でカリ首ホジホジしてえ♪ チンカス擦り落として差し上げますからあ♪」

セシリア 「ですから早くう♪ チンカスを欲しがる下品なケツ穴にい♪ メス汁垂れ流すケツ穴にお越しくださいい♪」

セシリア 「って、んほ、お〜♪ おちんぼ様来りゆう♪」

セシリア 「チンカス塗れのおちんぼ様が、んぶう♪ ケツ穴かき分けて……んぐう♪ イグう♪」

セシリア 「ケツ穴抉られてイグう♪ ケツ穴犯されてイッツグうううううう〜♪」

セシリア 「んっほおおおおお〜♪」

セシリア 「お♪ 、お〜♪ や、これえ♪」

セシリア 「ウンチの穴からガス漏れるう♪ でっかいウンチガスう♪ ふぐう〜♪」

セシリア 「んほおおお♪ 、お♪ 、お〜♪ 出たあ♪ ウンチガスう♪ くっさいオナラの音お♪」

---



---

セシリア

「ん、お♪、お♪、お、お♪」

セシリア

「んぐう♪、おろろ♪ け、ケツ穴あ♪」

セシリア

「ふう、ふう♪ まさか射精される前にイカされる  
だなんてえ♪」

セシリア

「ああ主よお……♪ ケツ穴でザーメンをお届けす  
ることが出来ない惨めな私をお許しく下さいい…  
…♪」

セシリア

「って、ひゃう!?!」

セシリア

「ちょっと、いきなり指を絡めてくる何て何を考え  
て、って、へ?」

セシリア

「何? 指輪が光りだして……う! んぐう!」

セシリア

「う……はあ、はあ、ん、あら? 私は一体何をし  
て……」

セシリア

「って、このキモ豚! 一体誰の許しを得て私の体  
に……!」

セシリア

「て、え? ちょ、ちょっと待ちなさい……私のお  
尻に、何か……入ッ……って……」

セシリア

「ひい!?! な、何で!?! どうしてお尻の穴にあ  
なたのチンポが入っているのよ!?!」

---



---

セシリア 「聖女の処女を奪った挙句う♪ お尻をお♪ ケツ穴まで犯された何てえ！ んぐう♪」

セシリア 「絶対許さないわあ！ このキモ豚があ！ んほおおお♪ ん、んぶう♪ こ、殺すう！ 殺すう……んむう！？」

セシリア 「んぶ！ じゆるる！ ん、ちよ、キス止め……んむう！？」

セシリア 「じゆるじゆる、んちゆ！ れろれろれろ……ん、んむう！」

セシリア 「んぶっ！ ちゆぶ！ じゆるるる……ぶはあ！ はあ、ん、お♪、おろろ♪」

セシリア 「ケツ穴犯しながらキスだなんてえ！ んぐう♪ おおおお♪ んむう！」

セシリア 「んちゆ！ じゆるるる！ んぶ！ ちよ、こんな気持ちいい訳ない、んぶ！ じゆるじゆる！ んちゆ！ れろれろ、んちゆ！ ちゆ、ちゆ！」

セシリア 「んぶっ！ う！ おええええ！ うっぶ！ き、気持ち悪い！」

セシリア 「キモ豚の唾液、おええええ！ 臭すぎるわ！ んなの飲んでられない、あむう！」

---

---

セシリア 「んちゅ！ ん、じゆるじゆるじゆるじゆる！  
んぷ！ ん、ちゅ！ ちゅう〜……ちゅぷ！  
ん、はむ！ れろれろれろれろ」

セシリア 「んちゅ、ちゅう〜……ちゅ！ ん、ぷはあ！  
はあ、はあ、んっほおおお♪」

セシリア 「お♪、お♪、お♪、お♪、お〜♪ ちよ、ちよっ  
と！ 何急に、んふう♪ チンポ激しくう！ ん  
ほおおお♪」

セシリア 「ちよ、ちよっとやめなさい！ このままじゃ、ん  
ッほおお♪ ケツ穴裂けるう！ ウンチが漏れ  
るう！」

セシリア 「んぶう！ 嫌あああ！！ 嫌々嫌々あああ！！」

セシリア 「キモ豚に犯されるだなんてえ！ んぎい！ 下品  
なメス顔晒すなんて嫌あああ！！ 嫌々嫌々ああ  
あ！！」

セシリア 「んぐう！ こんツ、のお！ んぐう！ 絶対にイ  
カないい！！」

セシリア 「ケツ穴ほじられたくらいでえ！ 私は絶対にイッ  
たりしないわあ！ 絶対イカないん♪ ん  
ふう！、おほおおお♪」

セシリア 「ん、おおお♪ なっ♪ ケツハメ中にい♪ ん、  
♪ おまんこまで弄らないでえ！！」

---



---

セシリア 「キモ豚チンポでイグう♪ ケツ汁漏らしてイッ  
グううう♪」

セシリア 「ん、おおおお♪ マンコイグう♪ ケツ穴イグう  
♪ マン汁イグう♪ ケツ汁イグう♪」

セシリア 「おおおおん♪ イグううううう♪ イグイグイ  
グイグイグイグイグイグううううう♪」

セシリア 「ケツ穴イッぎぎゅうううううううううううううう  
♪」

セシリア 「ん、ッほおおおおおおお♪」

セシリア 「おおおうううう♪ んぶう♪ で、出てるう♪  
ケツ穴あ♪ 精液出てるう♪」

セシリア 「んぶうう♪、お♪ ん、おうう♪」

セシリア 「ウンチの穴からあ、ザーメンう……♪ んぶっ！  
お、おええうううう♪」

セシリア 「ぎ、ぎもちわるい……うっぶ！ おえええう  
う……」

セシリア 「んふうう、ふうう……んあ……また指輪が光って  
……んぐっ！ い、嫌……やめなさい！ 私を消  
さないで……！ 消えたくな……ひぐう……！！」

---

---

セシリア 「……うぐ、ん、ん、あら？ 私ってば、今まで  
一体何を……」

セシリア 「ひぐう！ な、何？ ケツ穴がドロっとし  
て、う、くっさッ！」

セシリア 「この香り……もしかしてザーメン？ それと私の  
マン汁に、ケツ汁も？」

セシリア 「ん♪ はあ、はあ、どうやら私の知らない気絶し  
てる間にチンカスザーメンを注いでくれたみたい  
ね」

セシリア 「これからもこの調子で、ん♪ 私の体にチンカス  
ザーメンを注ぎ続けなさい」

セシリア 「そう、あなたは私の肉奴隷。いいえ、チンカス奴  
隷がお似合いなのだから♪」

セシリア 「これから先、何年も、何十年後も、変わらず私の  
お口で♪ オマンコで♪ ケツ穴で♪ あなたの  
チンカスを食べ続けてあげるわ♪」

セシリア 「ああ♪ 主よ♪ どうか私とこのキモ豚とのチン  
カスお供えセックスを見守っててくださいませ  
♪」

---

セシリア 「それにしても、そのう……この前は悪かったわね」

セシリア 「せっかくおちんぼ様をケツ穴に入れてもらったのに、肝心の私が意識を失ってしまううだなんて」

セシリア 「ええ、性女としてあるまじき失態よ」

セシリア 「だからそのう、今日は迷惑をかけたあなたへの贖罪も兼ねて……あなたので欲しい事、何でもしてあげるわ」

セシリア 「遠慮はいらないわ。さあ、言ってごらんなさい」

セシリア 「……はい？ 耳元で好きって告白されながらチンカス弄って欲しいですって？」

セシリア 「はあ、全く。いいわ。言う通りにしてあげる」

セシリア 「けど勘違いしないで。これからする事は全て演技。嘘よ」

セシリア 「私は決してあなたの事など好きではないし、愛してもいないわ」

セシリア 「けれど、あなたへの贖罪として仕方なくやる、本当にただそれだけなのだから」

---

セシリア 「ふん！ そうと決まれば、ほら！ こっちに寄りなさいー！」

セシリア 「ん、そう……そのままじっとして？」

セシリア 「ええ、いいわ……ん……さあ、耳を澄ませて……」

セシリア 「……ん、好き♪」

セシリア 「あなたの事、大好きよ♪」

セシリア 「あなたの声も、あなたの髪も」

セシリア 「あなたの顔も、あなたの体も」

セシリア 「あなたのおちんぽ様も、チンカスも」

セシリア 「あなたの全てが愛しいわ♪ ええ、大好きよ、あ・な・た♪ ん、ちゅ♪」

セシリア 「ふふ♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

セシリア 「すすき♪ すすすき♪ ちゅ♪ 愛してるわ♪  
そう、愛してる♪ んちゅ♪」

セシリア 「ほら♪ ここも♪ チン皮に包まれたあなたのおちんぽ様も大好きよ♪」

セシリア 「ふふ♪ 包莖に隠れてるおちんぽ様♪ ほんっと可愛いわあ♪」

---

セシリア 「こうやって、チンカスでべったり張り付いたチン皮を、性女の指で丁寧にく」

セシリア 「チン皮ムキムキ♪ チン皮ムキムキ♪」

セシリア 「あらあら♪ チン皮、剥けちゃったわね♪ んく、ちゅ♪」

セシリア 「ふふ♪ チン皮の中に純白のチンカス畑が広がって♪」

セシリア 「ああん♪ ほんっと、素敵なたんカスおちんぽ様♪」

セシリア 「好き♪ チンカス大好き♪」

セシリア 「白く黄ばんだ見た目も♪ 腐った生ごみのような香りも♪ 勿論、下品でにッがい、チンカスのお味も♪」

セシリア 「ふふ♪ 指の腹でチンカスをこすり落とす♪」

セシリア 「さあ♪ 性女がチンカスを咀嚼する音、よく聞いてなさい？ んれくく♪ はあむ♪」

セシリア 「くちやくちやくちやくちやく♪ くちやくちやくちやくちやく♪」

セシリア 「くく♪ くく♪ くく♪ くく♪」



---

セシリア 「ん、ぷはあゝ♪ はあ、はあ♪ んふふ♪ ああ♪  
♪ 美味しいわあ♪」

セシリア 「こんな極上のドスケベジュースを飲まされたら、  
ん♪ 私も発情しちゃって」

セシリア 「ん、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、おゝ♪」

セシリア 「んふふ♪ おまんこ濡れてきちやっただわ♪」

セシリア 「はあ♪ はあ♪ 好き♪ 好きい♪ んれゝゝろ  
れろれる♪」

セシリア 「ちゅ♪ はあ♪ おちんぽ様♪ おちんぽ様♪  
おちんぽ様♪ おちんぽ様♪」

セシリア 「セシリアの耳舐めで勃起した変態おちんぽ様♪」

セシリア 「チンカス塗れでくっさいお下劣おちんぽ様♪」

セシリア 「おしっこも上手く拭けない包茎おちんぽ様♪」

セシリア 「そんなダメダメで可愛いらしいおちんぽ様が大好  
きよ♪ あ・な・た♪ んゝ、ちゅ♪」

セシリア 「んふふ♪ なゝんで、こっちのお耳はもういいか  
しら？」

セシリア 「ええ分かってるわ」

セシリア 「今度はこっちのお耳で……」

---

---

セシリア 「あなた好みの媚びっ媚びのメス声で、愛してあげる♪」

セシリア 「ああ♪ あなたあ♪ ん〜……ちゅ♪ 好き♪  
だ〜い好き♪」

セシリア 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

セシリア 「私が愛してるのはあなただけよ♪ ああ好き♪  
大好きい♪ ん、ちゅ♪」

セシリア 「このままあなたの大好きなみ〜み〜な〜め♪ し  
てあげるわね♪」

セシリア 「ん、あなたあ♪ んれ〜ろれろれろ♪」

セシリア 「んちゅ♪ ふふ♪ お口の中が耳カス塗れ♪」

セシリア 「そうね♪ 今度は少し多めにチンカスをいただい  
ちやおうかしら♪」

セシリア 「例えば、こ〜こ♪ チン皮にベツタリ張り付いた  
熟成チンカス♪」

セシリア 「これを〜、ベリベリって剥がして〜……指に付い  
たチンカスを〜♪ ああむ♪」

セシリア 「ちゅばあ♪ んふふ♪ ほうら♪ あなたのくっ  
さいチンカスチーズと黄ばんだ耳カスを〜」

---

---

セシリア 「くちやくちやくちやくちやく ぐちやくちやく  
ちやくちやく♪」

セシリア 「はむ♪ 「く♪ 「く♪ 「く♪ 「く♪」

セシリア 「ん、ぷはあゝゝ♪ ああん♪ やっぱリチン皮で  
蒸らされたチンカスチーズは極上ね♪」

セシリア 「何度食べても食べ飽きない、贅沢なチンカスフル  
コース♪」

セシリア 「こんな美味しいチンカスが全部私の物だなんて、  
ああ♪ あなたみたいなたいなたチンカスパートナーと出  
会えて幸せよ♪」

セシリア 「ええ♪ ずっと一緒♪ あなたが神様の元に召さ  
れるまで、いつまでも、どこまでも♪」

セシリア 「絶対離したりなんかしないわ♪ あなたは私の愛  
しいお人、愛しいチンカス様だもの♪」

セシリア 「はあ♪ チンカス様♪ 美味しいチンカス様あ♪  
んれゝゝろれろれろ♪」

セシリア 「ちゅ♪ 今度はチンカスをゝ、はあむ♪」

セシリア 「んゝ、ちゅぱあ♪」

セシリア 「んふふ♪ チンカスと耳カスの食べ比べ♪」

---

---

セシリア 「ベロにはチンカスがべったり張り付いて♪ 歯の裏には黄ばんだ耳カスがたつくさん♪」

セシリア 「飲み切れなかったチンカスジュースも喉に絡んで……ふふ♪ まるで洗い忘れたオナホの様♪」

セシリア 「ねえ♪ あなたももう我慢できないでしょ？ お金玉のザーメンぴゅっぴゅっしたいのでしょうか？」

セシリア 「いいわよ？ 私のお口ご奉仕でおちんぽ様イっちやいなさい？」

セシリア 「チンカス臭いメスの口臭を嗅ぎながら……ほくら♪ シコシコシコシコ♪ シコシコシコシコ♪」

セシリア 「ふふ♪ チンカス手コキでぐちゅぐちゅ泡立ちゃって♪」

セシリア 「ああ♪ 天然のチンカスジュース♪ とっても美味しそう♪」

セシリア 「はあ♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ だくい好き♪」

セシリア 「愛してるわ♪ この世の誰よりも愛してる♪」

セシリア 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

---

---

セシリア 「ほら♪ あなたの事が大好きなメスのチンカス手  
コキでイキなさい♪」

セシリア 「お金玉に溜まった濃厚チンカスミルクを全部吐き  
出しなさい♪」

セシリア 「くっさいオスのザーメン思いっきりぴゅっぴゅし  
ちやいなさい♪」

セシリア 「あッ♪ あッ♪ ああ♪ そう♪ 出るのね？  
出ちゃうのね？」

セシリア 「ほらいって？ おちんぽ様イって？ チンカス  
ザーメンぴゅっぴゅして？」

セシリア 「ほら♪ ほらほらほらほら♪」

セシリア 「イケ♪ イケ♪ イケ♪ イケ♪ イケ♪ イケ♪ イケ  
♪ イケ♪ イケ♪」

セシリア 「イケイケイケイケイケイケイケイケ♪ イケイケ  
イケイケイケイケイケイケ♪」

セシリア 「おちんぽぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅっ  
っ♪」

セシリア 「ん、ふうっ♪ ふぶ♪ あらあら♪ こんなに  
勢いよくザーメンお漏らししちゃって♪」

---

---

セシリア 「ええ♪ とつても素敵なおちんぽぴゅっぴゅだつ  
たわよ♪ んん、ちゅ♪」

セシリア 「はあ♪ せっかく新鮮なザーメンを出して貰った  
のだし、ここはチンカスと一緒に♪ んれ  
ん、じゅる♪ じゅるるる♪」

セシリア 「ん♪ くちやくちやくちやくちやくちやくちやく  
ちやくちやくちやく」

セシリア 「く♪ く♪ く♪ く♪ く♪」

セシリア 「ん、ぷはあ♪」

セシリア 「ふふ♪ 出したてホヤホヤのチンカスミルク、ご  
馳走様♪」

セシリア 「残りのチンカスはザーメンと一緒にチン皮の中に  
残しておくわね？」

セシリア 「きつと、数時間もすればムレツムレで濃厚なチン  
カスチーズが出来上がると思うから♪」

セシリア 「そしたらまた教会にいらっしやい♪」

セシリア 「あなたの好きな性女のお口で♪ お金玉空っぽに  
なるまで舐めしゃぶってあげるわ♪ んん、ちゅ  
♪」

---